

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29268 奈良の都の木簡に会いに行こう！



開催日：平成29年8月22日(火)・23日(水)

実施機関：奈良文化財研究所

(実施場所) (奈良文化財研究所・平城宮跡)

実施代表者：渡辺晃宏

(所属・職名) 副所長兼史料研究室長

受講生：小学生 28名(8/22:15名、8/23:13名)・
中学生 9名(8/22:5名、8/23:4名)

関連URL：<https://www.nabunken.go.jp/>

【実施内容】

プログラムの留意・工夫点 ①木簡について楽しく学んでもらえるよう、講義、実習・作業、演習、見学など、多面的なプログラムを組んだ。②受講生がプログラムに主体的に関われるよう、実施分担者、及び日頃遺物の洗浄・分別に携わっている大学院生の実施協力者各1名を、受講生3、4人で構成する班ごとにチューターとして配置し、受講生の関心に応じて随時適切なアドバイスが行えるようにした。③木簡の使用法が具体的にイメージできるよう、解説演習に用いる平城宮跡第1号木簡と長屋王家の封緘木簡について、写真を使った簡易な模造品を作成し配布した。④木簡に登場する食材を使って復元した古代食のお弁当を用意し、食事という身近な場面でも木簡に親んでもらえる機会を設けた。⑤作業場所の収容人員の関係で各日10名の募集としたのに対し、当初2倍以上の応募があったが、プログラムの運営を工夫することで、応募者全員に参加していただくことができた。

当日のスケジュール

- 9:30～9:45 受付(奈良文化財研究所仮設庁舎南棟1階会議室)。受付後、会場の小講堂へ移動。
- 9:45～10:00 開講式(挨拶・オリエンテーション、科研費の説明)
- 10:00～10:45 講義「木簡に会ってみよう—保存処理済み木簡を読んで木簡に親しむ」(講師：渡辺晃宏)

まず前置きなしに、班ごとに用意した本物の木簡をじっくり見ってもらう時間を取った。木簡は、受講生一人ひとりの名前の漢字が含まれるものを用意し、自分の名前の漢字を探すことで木簡に少しでも親んでもらえるようにした(展示した

木簡は全て赤外線画像を用意し、木簡の読み方とともに資料として配布し、実物の木簡と対比できるようにした)。その上で、木簡を使った理由、木の特性と木簡の機能が結びついていること、古代の人が捨てたゴミが歴史を考える大事な宝物となっていることなど、木簡の基本的な事柄をモノに即して説明した。

- 10:45～11:00 小休憩



プログラム案内用ちらし



講義：木簡に会ってみよう
保存処理済と水漬けの本物の木簡の観察

11:00-12:00 実習①「木簡を探してみよう—木簡を含む土の洗浄・選別作業を体験」(於木器整理室。実習①と実習②は、A・Bの2班に分けて、交替で実施)

平城宮東方官衙のゴミ穴 SK19189 から持ち帰った削屑を中心とするさまざまな遺物を含む土(木屑の堆積)の洗浄作業を体験してもらった。図解を用いた説明を聞いたあと、洗浄する遺物を取り分けるところから作業を始めた。続々と削屑が見つかり、時間が経つのを忘れて作業に没頭する受講が多かった。

12:00-13:00 昼食(奈良パークホテルの協力で復元された古代食を含むお弁当を用意した)

復元に根拠になった食材が見える木簡についての説明も聞いてもらいながら、古代食に舌鼓を打ちつつ参加者全員で古代に思いを馳せることができた。

13:00-14:00 実習②「木簡に触れてみよう—木簡収蔵庫で木簡の水替え作業を体験」(於第一収蔵庫の木簡庫)

木簡の水替え—水漬け状態で保管してある木簡のメンテナンス作業—を、木簡の取り扱い方について研究員の手ほどきを受けながら、体験した。

14:00-14:15 小休憩

14:15-15:00 演習「木簡を読んでみよう—平城宮第1号木簡の解読に挑戦」

木簡の解読には、不完全な残り文字を類推を交えながら読む必要がある。偏や旁が欠けた文字を完成させるパズルを楽しんで木簡解読の準備を整えたあと、約1.5倍に引き伸ばした平城宮第1号木簡の模造品を用いて記帳作業を実際に行い、木簡解読を体験した。

15:00-15:30 クッキータイム

15:30-16:40 見学「平城宮に出かけよう—第1号木簡の発見地大膳職推定地を訪ねる」

1961年1月に平城宮最初の木簡が見つかったSK219のある大膳職推定地を見学した。復元された第一次大極殿に基壇北側から道路越しに遺跡を遠望したあと、実際に現地を訪ねた。道々第一号木簡の背景にある政治情勢についても説明し、その理解を深めてもらった。

16:40-17:00 修了式(アンケートの実施、未来博士号の授与)
小講堂に戻り、アンケート実施の後、未来博士号を参加者一人ひとりに授与し、プログラムを終えた。

17:00 終了、解散

事務局との協力体制 日常科研費の事務を担当している研究支援推進部連携推進課の職員1名が当プログラム実施にかかる全ての事務を担当し、また当日の実施補助を含め、課として



実習①：木簡を探してみよう
平城宮東方官衙の大土坑の土(木屑)の
洗浄・分別作業



昼食：木簡に登場する食材で復元された古代
食のお弁当を食べよう



実習②：木簡に触れてみよう
木簡を保管している水の交換(水替え)作業



演習：木簡を読んでみよう
木簡を読む最も基本的な作業・記帳の体験

全面的なバックアップを行って事業を支えた。

広報活動 実施機関である奈良文化財研究所のHPにおける案内、近鉄線の近鉄奈良駅・大和西大寺駅でのポスター掲示とちらし配布、奈良県・奈良市教育委員会への後援依頼、奈良市しみんだより7月号での広報、タウン誌「マイ奈良」におけるプログラム紹介のほか、近隣小中学校に出向いての挨拶とポスター掲示とちらし配布依頼、及び市内小中学校などへのポスター・ちらし送付ほか、さまざまな広報活動を実施した(アンケートを見る限り、日本学術振興会のHPのひらめき☆ときめきサイエンスの頁の効果が最も大きかったが、地域に根ざした機関として、近隣への地道な周知活動が欠かせないことも実感した)。

安全配慮 受講生3、4人で構成する班ごとに、実施協力者の学生1名と、研究員1名を付け、講義・実習補助だけでなく、安全・健康面での管理が行き届くようにした。夏期の屋外活動を含むプログラムのため、暑さ対策について事前に周知し、当日もこまめな天候判断や水分の用意など熱中症対策には特に配慮した。また、弁当・おやつの提供にあたっては、夏場の衛生管理はもとより、アレルギー物質についても綿密な打ち合わせと、参加者への事前確認、及びある場合の代替処置などの配慮を行った。ホウ酸・ホウ砂の水溶液を扱う際には、手袋を用意したほか、丁寧な手洗いを指導し、万一来に備えた。

今後の発展性、課題 受講した子どもたちの真剣なまなざしや驚きの表情を見ていると、木簡という1200年前から1300年前の本物の資料にじかに触れてもらうことが、教科書でしか知らなかった歴史の実感につながったのではないと思う。実物の持つ力を、将来を担う子どもたちに体験してもらうことは、生の資料を調査・保管している機関の社会的責務であると痛感した。実物の文化財を使うことへの不安が全くないわけではないが、模造品やレプリカなどと併用することで、そうした心配は払拭できるものと考える。

本物のもつ力を体験してもらうといっても、単に教えるのではなく、子どもたち自身に気付いてもらうためには最低限の適切なアドバイスが必要である。今回は作業を組み込んだため、いわば身体で体験してもらうことができたが、講義を中心とする場合には、子どもたちの関心を引きつけるための十分な工夫、及びそのための事前準備が必須となるだろう。



見学：平城宮に出かけよう
木簡研究の原点大膳職推定地のSK219跡



配付資料表紙

【実施分担者】

- 馬場 基 都城発掘調査部・主任研究員
- 山本 崇 都城発掘調査部・主任研究員
- 桑田訓也 都城発掘調査部・主任研究員
- 山本祥隆 都城発掘調査部史料研究室・研究員
- 松田和貴 埋蔵文化財センター保存修復科学研究室・研究員
- 方 国花 都城発掘調査部史料研究室・アソシエイトフェロー
- 藤間温子 都城発掘調査部史料研究室・アソシエイトフェロー

【実施協力者】 13名

【事務担当者】

大橋由起子 研究支援推進部連携推進課・事務補佐員